

航空気象群教育訓練点検

2月1日から5日まで、小牧気象隊で航空気象群(司令：塩田修弘1空佐=府中)教育訓練点検が行われた。気象隊は全国に19カ所あり、定期的に教育訓練点検を受検する。内容としては、教育訓練の状況、部隊等に対する気象支援状況に関する多岐の項目に亘る。

今回、航空救難対処と基本教練を取材した。受検中とそうでないときの隊員の顔が別人のようで、点検の厳しさとそれに挑む気迫を見ることができた。



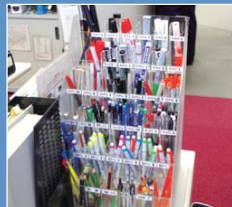
航空救難の飛行ルート上の予測や捜索のための現地の足場の状況予測など、用意しておく情報の種類は数え切れない。



救難隊に対してのブリーフィング。救難隊が不安に思っているであろう要素も予測をたて、回答できるように準備をしておく。「現地の気温が0度を下回る時間は?」「X地点からだと救難機の見通し距離は?」「人が水中に投げ出されていたら、水中生存時間は?」などの質問が矢継ぎ早に飛ぶ



刻一刻と変わる状況や情報を精査し、関係部隊等から気象隊が求められる情報を考え、問われたら回答できるように隊員に指示を出す。怒声が飛び交う、緊張した状況。



刻一刻と変わる状況を解りやすくボード等に記入するため、解りやすく色分けする。マジック立てはまるで文房具屋さんのよう



現場周辺及び活動に関する地域や時間帯毎の予報をたてる。救出には気象が関わる事柄が沢山ある。「現場について下りられるか」「救出活動の可能時間」「ホバリングしてられる向きや時間」...等々。



近くの飛行場の情報を予測したもの。救難機がどの飛行場から上るか、どの飛行場に下りるか...等を判断するため



分隊教練から小隊教練へ移行したところ。全ての角度・間隔・整列状況等を点検。点検補佐官に取り囲まれながらの点検。緊張感がひしひしと伝わってくる。

点検を終えて、今回の点検官である航空気象群副司令谷口誠1空佐は「点検を通じて、小牧気象隊が良好な状態であることが確認でき頼もしく思う。更なる精強化に努めてもらいたい」等と述べた。

気象は、生きている。予測のつかない生き物を相手に観測し予報をたてる。様々な気象に関する情報を必要としている人に届けなければいけない。また、おかれている状況によって、必要な情報は違う。「飛行の陰に気象支援あり」!